

令和 5 年度第 2 回墨田区地域包括支援センター運営協議会議事要旨

■日 時：令和 5 年 1 1 月 1 5 日（水） 午後 1 時 3 0 分から午後 3 時 3 0 分まで

■場 所：墨田区役所 2 階 2 1 会議室（オンライン同時開催）

■出席者（敬称略）

会長：鏡諭

委員：岩崎洋子、北總光生、堀田富士子、湯川淳、岩田尚明、前田恵子、濱田康子、小谷庸夫、佐藤和信、村山厚子、福島洋子、関口芳正

事務局その他：高齢者福祉課長、介護保険課長、福祉保健部副参事（地域包括ケア推進担当）、
高齢者福祉課係長・主査 5 名、介護保険課主査 1 名、高齢者支援総合センター
9 名

■議 事

1 第 9 期日常生活圏域別地域包括ケア計画の策定について

- ・事務局から第 9 期日常生活圏域別地域包括ケア計画（以下、9 期計画という。）の策定について説明を行った後に、各高齢者支援総合センター（以下、センターという。）から各圏域ごとの計画について説明を行った。

2 その他

- ・事務局からうめわか高齢者支援総合センター・高齢者みまもり相談室の一時移転に関する移転場所及び移転時期について周知を行った。また、令和 5 年度墨田区地域ケア会議の実施について周知を行った。

■主な発言等

1 第 9 期日常生活圏域別地域包括ケア計画の策定について

（質問）地域住民に対する 9 期計画の周知はどのように行う予定か。

（回答）行政の計画であり、住民へ全戸配布を行うことはしないが、区のホームページに掲載する。また、パブリックコメントで意見を募らせていただく。それぞれの事業についても、区で作成する冊子やホームページ等で周知させていただく。

（意見）ニーズ調査の結果等を受けて、明確な目標や地域の課題を把握したうえで計画を建てていることが見て取れる。これまでよりも分かりやすい計画になっている。

（質問）八広はなみずきの目指すべき将来像の記載があるページの中段にある「専門職の協力者を増やす取組」とあるが、具体的にどのようなものか。

（回答）地域にある病院の先生、医療相談員、栄養士の方等、多職種の方に地域住民向けの講座の講師協力をお願いし、地域住民に認知症や精神疾患等、医療の情報をわかりやすく伝える取組である。

(意見) ぶんかでは11種類の社会資源リーフレットを発行し、約50カ所に設置しているということである。受取る側が消極的な場合もあるので、自宅訪問等により積極的に情報を届けることを行ってほしい。

(質問) 目指すべき将来像が具体化し、分かりやすくなった。各圏域での取組がうまくいった場合、他の圏域と共有するような場はあるか。

(回答) センター・相談室連絡会や、各種ワーキングの場で共有している。また、各センター以外には機能強化担当が各センターの後方支援を行っている。それぞれのセンターから挙げた特徴的な取り組みや、共有したい課題について、会議の場で共有し課題の検討を行い、横の連携がとれるよう取り組んでいる。

(質問) 会長にご意見をいただきたい。第9期の施策の方向性の5番目に認知症施策の推進というタイトルをつけさせていただいている。認知症施策の基本的な考えとして、認知症になったとしても自分らしく生きていくということであるが、認知症の予防という使い方はなるべく避けて、認知症の予防を促進するという表現の方が良いのではないかと考えている。各センターの計画の中で、認知症の予防という使い方をしているところがあり、こういった表現をこれからも使用して問題ないかご意見をいただきたい。

(回答) 認知症を予防するということは確かに難しいことである。様々な取組が認知症の予防になるという明確なエビデンスもない状況であり、予防という言葉で表現することが必ずしも適当ではないと思っている。

(質問) 同愛の計画にかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局の記載がある。何%程度の方が、かかりつけ医を持っていると把握しているか。

(回答) ニーズ調査の中で、かかりつけ医に関しては、82.7%、かかりつけ歯科医は71.1%、かかりつけ薬剤師は58.2%と、区全体の数字と比較してもいずれも高い数字となっている。

(意見) 回答した方が、かかりつけ医の意味を適切に把握したうえで回答しているとは限らない。自らの生活圏域の中で信頼できる医者をおくということが、かかりつけ医の意味だと思うので、そこを得られるような努力を行ってほしい。

(意見) 各圏域において地域ケア会議を複数回実施し、ニーズ調査を参考にしながら計画を作成したことで、住民の方々の意向を汲んだ計画になっている。これを束ねれば、墨田区全体の介護保険計画を含めて、墨田区高齢者福祉総合計画・介護保険事業計画になる。また、地域からの素晴らしい取組や課題について、きめ細かい会議を行っていく中で様々な意見が出され共有されている。地域での成功事例や失敗事例についても消化し、政策に結びつけていることから、共有化する取組は非常に重要と考える。

2 その他

質疑応答なし。

■ 令和5年度第3回は令和6年3月を目途に開催予定。